

まえさわ



牛の博物館駐車場に設置された看板の前に笑顔の関係者

白鳥地区住民協議会（鈴木正侃会長）は3月6日、牛の博物館駐車場に白鳥マップ屋外看板を設置しました。看板の原案は、同協議会が地域の「宝」を分かりやすくまとめ、昨年2月に完成させた白鳥地区地域資源マップです。地域住民に好評の同マップを看板用にアレンジし、市内外から多くの観光客が訪れる牛の博物館と前沢温泉舞鶴の湯の2個所に設置しました。

同協議会は住民が地域の自然や歴史などを見つめ直し、地域に誇りを持ってもらおうと、18年度から「白鳥地区地域おこし事業」を実施。河川清掃や地域学習会なども行っています。

地区の見所を分かりやすく
白鳥地区住民が案内看板設置

まちの話題



伝統はぐくんだ館山に別れ

統合を前に岩谷堂高校で校旗返納式



学校のシンボルである校旗を静かにたたむ生徒会役員

ことし4月に県立岩谷堂農林高校と統合し、移転する県立岩谷堂高校（中山敏校長）の校旗返納式は3月23日、同校体育館で行われました。卒業した3年生を除く生徒、教職員約400人が出席し、半世紀近い歴史を刻んだ館山の地に別れを告げました。

同校は大正7年岩谷堂町立実科高等女学校として開校し、学制改革により昭和23年に県立岩谷堂高校としてスタートしました。37年に江刺区館山地内に移転。平成6年には生徒が科目を選択する総合学科制を全国で初めて導入するなど、主体的な教育に取り組んできました。創立以来約14000人の生徒を世に送り出しています。

校旗を返納した生徒会長の菊地慶君（2年）は「先輩方が築いた伝統を受け継ぎ、新たな歴史を築いていきたい」と新生岩谷堂高校の飛躍を誓っていました。

みずさわ

柔らかな日差しに春の風情

羽田町火防祭に多くの人出



市内春祭りの先陣を切る羽田町火防祭は3月29日、羽田町本町通りで開かれました。柔らかい日差しが降り注ぐ中、鋳物の町ならではの鋳物太鼓や鋳物屋台などが練り広げられ、まちに春の訪れを告げました。

この祭りは、昭和初期の大火をきっかけに始まったもので、防火などを願い毎年この時期に行われています。メインとなる鋳物屋台「羽田町剣ばやし」では、33歳厄年連「巳星会」の会員約25人が、特産の鋳物を施した屋台を引き、会場を練り歩きました。沿道に詰め掛けた観客は、屋台に乗ったかわいらしい「お人形さん」に目を細めながら、一足早い春を感じていました。

江刺鹿踊の真髓ここに結集

ささらホールを舞台にザ・ササラ

江刺体育文化会館が主催する「ザ・ササラー鹿踊りのはじまりー」は3月8日、同館で開かれ、約800人の観客が江刺鹿踊の真髓を堪能しました。同館指定管理者のNPO法人いわてルネッサンス・アカデミア（高野誠司理事長）が、この公演を通してさらに鹿踊りの魅力やその価値を広げ、地域として保存伝承活動を支えていこうと企画されたものです。

江刺区内7団体と劇団らあす（花巻市）が8つの演目を披露。基本の踊り「礼庭」から、長時間を要するためイベントでは見ることができない「雌鹿かくし」「鉄砲躍」まで、ステージ狭しと展開されました。



鹿が仰向けになる鉄砲躍の一場面

えさし

いさわ

地域に息づく文化を守ろう

いさわ伝承芸能まつり



七福神舞を舞う南都田小の児童

いさわ伝承芸能まつりは3月20日、胆沢文化創造センターで開かれ、14団体が出演しました。伝承芸能とは、農作業や季節行事の際に余興などとして行われてきた唄や踊りのことです。人々の暮らしとともに受け継がれてきたものですが、近年では生活様式の変化で目にする場面が少なくなっています。このような地域の文化を守っていこうと企画された同まつりは、ことで18回目を迎えました。

三面大黒や七福神舞に出演した南都田小の児童や、百姓踊りに出演した高橋惟仁くん（3）らのほほえましい姿に、大きな拍手が送られていました。

平泉へつながる歴史の源流

衣里地区でシンポジウム

衣里地区振興会（伊藤敏男会長）主催の歴史シンポジウムは3月14日、サンホテル衣川荘で行われ、地区民ら約250人が参加しました。

衣川区には長者ケ原廃寺跡や一首坂など安倍氏に関連した伝承地が多く残っています。シンポジウムでは、これらについて学んでもらおうと基調講演や研究報告、パネルディスカッションなどが行われました。講演した弘前大学の齊藤利男教授は「衣川抜きではその後の平泉はありえない」と衣川の重要性を解説。参加した人たちは身近な史跡の重要性を再認識しながら、地域の歴史に理解を深めていました。



住民の関心が高く満席となった会場

ころもがわ